

序

国立大学法人筑波大学では、2010年4月から新たな第二期中期目標期間がスタートしました。筑波大学附属学校教育局では、附属学校の将来構想について長期にわたる議論を重ねた結果、「先導的教育拠点」「教師教育拠点」「国際教育拠点」の3つをキーワードとして、各附属学校の特性に応じた発展を図っていくことを第二期中期目標の要と致しました。

本校では、これらの一部を先取りする形で様々な取り組みを行ってきました。附属学校として大学との連携が求められる中で、「筑駒「リーダー形成」プロジェクト」など、筑波大教員との共同研究も活発に展開してきました。さらに、附属駒場高等学校連携小委員会を常設し、多数の大学教員にご参加いただき、大学との連携のさらなる深化による教育活動の充実にも努めております。本校OBや筑波大学教員による社会貢献プロジェクト「筑駒アカデミア」も2007年より開始し、一般向けの講演会と本校生徒による地域小学生向けワークショップなどで、地域貢献にも積極的に取り組んでおります。教員免許状更新講習においても、駒場を会場とした講座を各種開講しておりますが、特に附属学校実践演習として行った本校授業の公開では受講者から高い評価をいただいております。

また、本校は2002年度にスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、「先駆的な科学者・技術者を育成するための中高一貫カリキュラム研究と教材開発」の課題に、延長期間を含む5年間にわたって取り組んでまいりました。その実績が評価され、2007年度にSSH校に再指定され、「国際社会で活躍する科学者・技術者を育成する中高一貫カリキュラム研究と教材開発—中高大院の連携を生かしたサイエンスコミュニケーション能力育成の研究—」のテーマの下、全校一丸となって各種事業を展開しております。特に、サイエンスコミュニケーション能力の育成に関しては、「学びあい・教えあい」をキーワードにして、中高の枠を超えた異学年合同授業や、高校生が小学生を教えるサマースクール、ワークショップなども行っております。国際交流でも、一昨年度は北京師範大学附属学校へ、昨年度と今年度は台中第一高級中学校へ生徒を派遣し、密度の濃い交流を行っております。

以上のように本校の取り組みは極めて多岐にわたっておりますが、教育機関として最も大切なことは日々の教育活動の充実にあることは言うまでもありません。本論集は、本校における教育研究・教育実践の成果を教科別にまとめたものです。これは、最初に掲げた附属学校の中期目標の一つである「先導的教育拠点」としての本校の位置づけにも大きく関わることです。本校の研究成果が、関係各位の教育活動のご参考になれば幸いです。

奇しくも本冊子は本校論集の第50集にあたります。このような長期間にわたって論集を発行し続けることが出来ましたのも、ひとえに関係各位のご支援、ご理解があつてのことと存じます。皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援をお願いします。本校及び関係各位の教育実践のより一層の充実をはかるため、本論集への忌憚のないご意見、ご批判、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

2011年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長 星野 貴行